

### 『アスキュー神父様の思い出』

アウグスチヌス 川口 琢

アスキュー神父さまが倒れた・  
二〇〇三年六月一日の力トリック城北橋教会献堂五十周年記念でオーストラリアから参加され、沢山の信者はじめ関係者とお会いになり、本当に満足して帰国された航空機の中で出来事でした。乗り合わせたお医者さんや、ケアンズの病院での処置で、早期の回復が出来ると思われたのに意識不明の状態が長く続きました。

見舞いに向かわれたポール・ブラウン神父さまも回復は困難かもと落胆していました。奇跡的な回復を知らされたとき、カトリックの布教に長年尽力された神父さまへの神の温情を感じ、その後二年弱、後遺症もなく健康に過ごされました。

アスキュー神父さまは同期で行動的なクワーク神父さまとは対照的で、英国紳士を地で行ったように威厳があり、どちらかという

近づきたい雰囲気がありました。私は四十数年前、「洗礼」の為の勉強をフィッツギボン神父さまにお願いし、最終試験をアスキュー神父さまに受けました。その時、最高に緊張したことを今でも忘れません。何度かゴルフも一緒にしました。ショットはいつもまっすぐ、性質どおりで付け入るすぎがありませんでした。老後の生活は「ツウンバ」の聖心会の教会老人ホームでした。この町はブリスベーンから内陸へ少し入ったところで「ガーデンシティ」といわれる花いっぱいすばらしい所です。クワーク神父さまのふるさと「ドービー」からも近く大きな学校等も併設されています。私も一九七〇年にクワーク神父さまに同行して伺ったことがあります。その後ブリスベーンを何度か訪問しましたがアスキュー神父さまへの訪問が出来ませんでした。申し訳なく思っています。

献堂から半世紀にわたり日本と我が城北橋カトリック教会の発展のために、常に変わらぬ温かい心で見守って頂きました。その後、誰の迷惑もかけず、椅子に座った

ままの姿で「帰天」されたと聞き及んでいます。帰国されていた同輩のクワーク神父さまの祭式で葬儀をおえ「ダグラスパーク」（聖心布教会の共同墓地）に埋葬され仲間の神父さま方と私たちを見守っていた、だいたいあります。本当にありがとうございました。

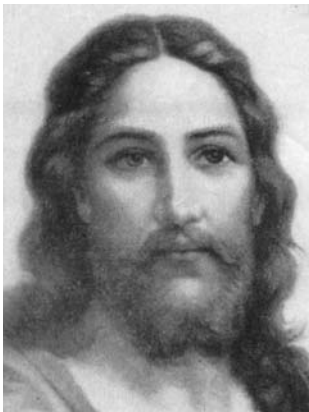
### 『アスキュー神父様 楽しかったね』

各務原教会 石井 緑

アスキュー神父様の主任司祭としての最後の仕事は、各務原教会で小二から、中三の子供たち八人（四家族）への初聖体でした。神父様の提案で夏休みの間、各家庭を会場として数日ずつまわり、初聖体の勉強をしました。

歌もお祈りも神父様と母親と子供が一緒に致しました。初めは嫌がっていた子供たちが喜んで行くようになる頃、母親たちの信仰も変わりました。神様が私たちを愛しておられることが分かり、賛美の歌をたくさん歌いたくなったのです。すばらしい感動の体験でした。

引退後も各務原教会の祈りの集いには毎週参加して下さり、また、みこころセンターでの祈りの集いにも参加されました。私は受洗してから神父様と一緒に、主を賛美し続けてこられたことを心から神に感謝しています。神父様、楽しかったね！



「僕は神様にたくさんお祈りをしたくなりました。夜も祈ったらこわくなくなつて、一人で寝れるようになりました。」と書いた小学二年生の息子も、今は大学四年生となりました。今は一人暮らしで信仰があるのかどうか不明ですが、あのとときの体験は心に残っているとと思います。